

応用情報技術者 講評

【総評】

今回の午前試験は、見慣れない問題が多くやや難しかった印象があります。午後試験は、過去に出題された論点や素直な設問が多く、解きやすかった印象があります。午前試験がやや難しめですが、午後試験が素直だったことを考慮すると、全体的な難易度は標準的だったと評価できます。

【午前】

今回の午前試験では新規テーマの出題数が多く、全体の 1/4 にあたる 18 問となっていました。ここ数回の試験では、新規テーマの出題数が多めになっていましたが、今回はそれを更に上回っています。常識的な判断で解ける問題や語感から解ける問題もあるものの、知らないと解けない問題も少なくありません。全体的には過去問題演習の効果が得にくく、苦戦した受験者が多かったと予想されます。前回の試験では午後試験の頻出テーマである SQL の COALESCE 関数が午前試験でも出題されましたが、今回の試験でも午後試験で登場したことがある SQL の PARTITION BY 句が出題されました。午後試験でデータベースを選択する予定であれば目にした方も多いでしょうが、そうでない方にとっては判断の難しい難問でした。

(主な新規テーマ)

- | | | |
|------------|-------------|-----------------|
| ・交差検証 | ・可視光カメラ | ・量子超越性 |
| ・タイミングチャート | ・カルーセル | ・PARTITION BY 句 |
| ・ディープフェイク | ・SBOM | ・インセプションデッキ |
| ・メディアクエリ | ・コロケーション | ・オープンデータバイデザイン |
| ・業務改善の4原則 | ・UX デザイン | ・コ・クリエーション |
| ・ダーウィンの海 | ・ファインチューニング | ・デジタル社会形成基本法 |

新規テーマが多かったことに加え、応用情報技術者試験からの過去問題流用数は 28 問と、初めて 30 問を下回りました。流用元のうち 17 問は 4~6 回前である令和 4 年度秋期~令和 3 年度秋期に集中していたので、このあたりの問題を解いた方であれば見覚えのある問題が多いと感じたかもしれません。また、基本情報技術者試験からの流用は 8 問と全体の 10% を占めました。基本情報レベルの知識は「知っていて当然」という扱いになると考えられますが、やや古めの平成 25 年前後からの流用が多く、見たことがない受験者も少なくはないでしょう。高度区分からの問題流用は、今までの試験よりも多く、全体の 20% にあたる 16 問でした。高度区分から流用された問題は新規テーマも多く、難しく感じた一因と予想されます。

既出のテーマとしては、前回の試験で初めて出題された量子コンピュータやオブジェクトストレージに関連する問題が、今回の試験でも出題されました。直近の試験の問題がそのまま流用されることはないでしょうが、関連する問題や表現を変えた問題は出題される可能性があるため、直近の問題にも目を通すとよいでしょう。午前試験全体としては、ここ数回の試験と比べて見慣れない問題が多く難しい試験と評価できます。

この講評の著作権は TAC(株)のものであり、無断転載・転用を禁じます。

【午後】

午後の出題テーマは、次のとおりです。

| 問題番号 | 出題分野 | テーマ |
|------|--------------|------------------------|
| 問 1 | 情報セキュリティ | Web サイトのセキュリティ |
| 問 2 | 経営戦略 | コーヒーチェーン店の成長戦略 |
| 問 3 | プログラミング | 素数を列挙するアルゴリズム |
| 問 4 | システムアーキテクチャ | データ処理機能の配置 |
| 問 5 | ネットワーク | セキュア Web ゲートウェイサービスの導入 |
| 問 6 | データベース | トレーディングカードの個人間売買サイトの構築 |
| 問 7 | 組込みシステム開発 | スマートイヤホン |
| 問 8 | 情報システム開発 | オブジェクト指向設計 |
| 問 9 | プロジェクトマネジメント | 電気機器メーカーの新たなプロジェクト |
| 問 10 | サービスマネジメント | サービスデスクの立上げ |
| 問 11 | システム監査 | チャットボット導入における開発計画の監査 |

必須問題である問 1 の情報セキュリティでは、ハッシュ関数や攻撃への対策といった出題実績のある論点が多く問われていました。ペッパーなどの新規用語も登場しますが、ソルトなどの今までに出題されたことがあるテーマを理解していれば問題文から違いを把握して答えることができるので、それほど難しくはありません。問題文の読解も難しくないため、基礎的な知識を身に付けていれば 6 割以上を正解することは難しくありません。全体的に素直な構成で、難易度はやや易しめの印象です。

選択分野に目を向けると、テクノロジー系では問題ごとの難易度に差があったように感じられます。問 5 のネットワークではプロキシサーバを用いた通信における NATP やプロキシ例外など、基礎的な知識で十分に解答が可能です。問 8 の情報システム開発でも、前半でオブジェクト指向に関する基礎的な知識を問う設問が多く、素直に解き進めていくことができます。これらの問題は比較的解きやすかった印象です。一方、問 6 のデータベースでは、WITH RECURSIVE が空欄になっていたり、インデックスの特徴や仕組みが問われたりするなど、やや難しく感じられました。特にデータベースの SQL は過去に出題されたテーマは知っているものとして扱われるような印象があり、徐々に深い内容を問う方向にシフトしているように感じられます。また、表を用いて業務を提示するケースが増えており、問題文の読取り量も増加傾向にあるので、対策を行う際は直近の問題も含め、広い範囲の過去問題を見ておくことが重要といえそうです。問 7 の組込み開発では、スマートイヤホンを構成するタスクの起動周期と実行時間に気を配る必要があり、これらを多くの設問で意識して解答する必要があります。一見するとどのように解答を導くのが判断しにくい難問といえます。

ストラテジ系及びマネジメント系については、解答しづらい記述式設問が多めであった前回と比べ、問題文から設問に沿った部分を特定することで解答できる設問が多かった印象です。出題された事例も、問 2 のコーヒーショップや問 10 のサービスデスクなど、過去に何回か登場しているものも多いので、過去問題の演習を実施した受験者であればさほど戸惑うことはなかったのではないのでしょうか。一方で、いくつかの問題において、“機械学習”や“PoC(概念実証)”などの比較的新しい要素が登場していました。これらの問題事例を把握するためには、これらのトレンドに目を配っておくことも重要と考えられます。ストラテジ系・マネジメント系の全体的な難易度としては標準的、もしくはやや易しめと評価します。

以上

この講評の著作権は TAC(株)のものであり、無断転載・転用を禁じます。

Copyrights by TAC Co.,Ltd.2024